

2019年4月12日

中野区教育委員会教育長 入野貴美子 殿

中野区10か年計画の見直しについての陳情

中野子どもと教育を守る区民の会 代表

連絡先

陳情事項

学校統廃合再編は、一度立ち止まって、検証・再考・検討をしてください。

理由

中野区での学校統廃合再編の議論は、1990年代後半に始まりました。児童生徒の減少により、小規模校が出始めた時期です。将来も子どもの数が減り続けることが予想され、他の区で学校統廃合が行われ始めました。中野区は、1997年11月「中野区立学校適正規模適正配置審議会」を立ち上げ、検討を始めました。審議会には、学識経験者、校長・教頭・教職員の各代表、PTA役員、町会役員、区議会議員、公募の区民などが参加し、広く意見が寄せられました。審議会の答申（2000年1月）は学校の適正規模について「決定的な理論は存在しない」とし、「望ましい学校の規模」については「教育指導の面から、小学校14学級以上（専科教員3名確保）、中学校9学級以上（体育教員2名確保）」「教職員の研究研修活動の面から、小学校12学級以上（各学年複数）、中学校12学級以上（5教科複数）」「学校運営の面から、小学校12学級以上、中学校6学級以上（各学年2学級以上）」とし「中野区における最小学校規模」として「小学校6学級、中学校6学級」を容認するとしました。そして「統廃合し、望ましい規模を確保しなければならない緊急性は見当たらない」と結論しました。

しかし、その後、審議会の答申が生かされることはなく、2004年10月、教育委員会は「中野区立学校再編計画（案）」を発表（05年10月版）し「学校教育法施行規則では学校の標準規模は12～18学級とされていますが、これを下回る12学級未満の学校が増加」しているとして、一方的に小規模校の解消、中規模校化への統合再編をすすめてきました。

学級統廃合再編が始まって10年以上過ぎていますが、この間、統廃合再編の問題点や課題の検証はされていません。学校再編計画は、大きく「前期」と「中後期」となっていますが、「前期」終了後の検証もなく「中後期（第2次）」計画が実施されています。また、当初の見込みと異なり子どもの数が減らない見通しであるのに、統廃合再編計画の見直しがされず、当初の計画どおりすすめられています。統廃合に伴う、仮校舎や新校舎建築の計画が変更・延期となっても、統廃合再編だけは当初計画のとおり実施されています。そのため、教室不足が深刻な状態になったり（教室不足は統廃合校に顕著にあらわれています）、新校舎建築までの仮校舎での生活が長期化する事態も生まれています。

今後の統廃合再編をめぐるでも、区民からは不安や批判が寄せられていますが、納得できる説明もなく、強引にすすめようという姿勢がみられます。

私たちは、学校の統廃合再編について、いまこそ、立ち止まって、見直すべきだと考えます。これまでの統廃合再編についての問題点や課題を率直に検証し、統廃合計画を再検討すべきです。その際、次のような点について重点的に検討を加えるよう要望します。

1 学校の「中規模化」が子どもたちにとって「より充実した教育環境のために」になっている

かどうか。教室、校庭、体育館、特別教室などは、子どもたちの活動にとって十分か。通学距離や通学時間はどうか。などについて再検討してください。

- 2 仮校舎での学校生活の長期化は、子どもたちにどのような影響を与えるかを再検討してください。「大規模改修」から「新築」へと変更した学校では、仮校舎生活が長期化（2年→4年、最長6年）しています。中野東中では、当初計画の「複合施設6～8階」が「10階」に変更され、工期が2年→3年に延長されました。さらに資材の不足により工期が半年ほど延びることになり、子どもたちの学校生活への影響は大きくなっています。
- 3 施設の併設や複合施設が学校教育を圧迫することが懸念されます。再検討してください。小学校新校舎には、キッズプラザ、学童クラブ、子育て広場、地域開放型図書館を併設することとなっています。そのため、学校の本来の施設が狭められ、制限されています。中野東中には10階建ての複合施設（総合子どもセンター、図書館）が併設されます。10階建て・40メートルもの建物に圧迫感はないのでしょうか。校庭の日照が確保されるのでしょうか。校庭が狭まることで教育活動に支障はないのでしょうか。検証・再検討してください。
- 4 新校舎の建築にあたっては、今後50年以上使用することを想定して、子どもたちにとって魅力のあるものにしてください。そのために、先進的な校舎建築を参考にしたり、専門家の意見を積極的にとり入れるなど、時間をかけて工夫するしてください。現状の建築計画は、どの学校も「四角い建物に、四角い教室を並べた」以上の魅力が感じられません。
- 5 学校の統廃合再編にあたって、新しい学校の立地や環境などについて、教育委員の方々が、実際に視察することを求めます。これまでの統合新校についても、意見交換会や説明会の時に、幹線道路の横断や通学の距離・経路、校庭が狭くなることなどについて、保護者や地域の方から不安や疑問が出されました。しかし、事務局・担当者から「大丈夫。環境が良くなる」と、根拠なく繰り返されるばかりでした。現在の計画についても、例えば、西中野小・鷺宮小の統合について、「西武線の踏み切り」「道路を挟んだ、段差の大きい立地」などの問題点が指摘されています。「西武線の踏み切り」の問題は上高田小・新井小の統合でも不安の声があります。これらの疑問や問題のついての納得できる説明がないまま、ほんとうにこのまますすめて良いものか、教育委員の方々が実際に現地を視察して下さるよう求めます。
- 6 校舎の建築にあたっては、それぞれの学校の校長先生をはじめ教職員の方々の意見や要望を十分にきいて、それを生かすよう求めます。子どもたちの活動や教育活動に必要なことや重視すべきことなどは、現場の教職員の方々が知っています。それらの意見を十分とり入れることが、子どもたちにとっての魅力ある校舎・校庭になるものと思われれます。そのための時間、場所、システムを確保するよう求めます。

以上